

# ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル 郵便番号104 電話 (3551)6215~9  
 ロシア東欧経済研究所 購読料 送料共前納 1ヵ月 1,200円 1ヵ年 14,000円

平成7年9月25日

No.1001

## 1995年1~6月のCIS諸国の経済

### はじめに

CIS国家間統計委員会『統計通報』(1995年7月、No.27)に、CIS12カ国の1995年上半期の経済実績が掲載されたので、本号ではこのデータを利用しながら同諸国の経済動向についてレビューする。

**CIS全般** トルクメニスタン、グルジアの数値が明らかでないので、GDP成長率についてはCIS合計の数値が発表されていない。掲載されているデータから当研究所が試算したところ、1995年1~6月のCIS合計のGDPは前年同期比7%程度の低下となった。大半の国において、インフレが進行するなか生産が下落するパターンが維持された。

投資はほとんどの国で縮小し、1995年1~6月のCIS全体の総投資額は前年同期比20%の低下となったと推計されている。なお、国によっては外国投資の果たす役割が非常に重要になっている。投資総額に占める外国投資のシェアは、ロシア、ベラルーシ、カザフスタンでは1~2.5%で大きくないものの、ウズベキスタンでは18%、アルメニアでは63%、キルギスでは73%に及んでいる。

1995年1~6月のCIS全体の工業生産は、前年同期比6.7%低下した。ちなみに、昨年の上半期は27.6%減であった。ロシアをはじめ大半の国で、生産の落ち込みは昨年よりも小幅になっている。

1995年1~6月にもCIS諸国では消費者物価の上昇が続いたが、インフレ率は総じて前年を下回っている。しかしながら、大半の国ではインフレが所得の上昇を上回り、実質賃金も低下した。国民の購買力低下、消費財の減産などが原因で、商品の小売はアルメニアを除いて低下し、有料サービス高もモルドバを除いて低下した。

1995年6月現在、CIS全体で300万人弱の失業者が公式に記録されている。ほとんどの国で公認失業者数は上昇を示しているが、減少に転じている国もあり、相変わらず実態を反映したデータとは言い難い。